

令和 6 年 4 月 10 日現在

機関番号：27401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00284

研究課題名（和文）近代熊本の歴史家が収集した和本・蘭書コレクション

研究課題名（英文）Collection of Japanese and Dutch books collected by a modern Kumamoto historian

研究代表者

大島 明秀（Oshima, Akihide）

熊本県立大学・文学部・教授

研究者番号：50508786

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：まず、熊本博物館蔵の和本群については、村田三節古医書コレクション、前原健太郎古医書コレクションの目録を作成して公刊した。草野幸次コレクションについては、和漢籍の仮目録を作成した。次に、熊本大学図書館蔵の菅野是正旧蔵蘭書については、仮目録を作成した。これに基づいて菅野文庫がどのようなコレクションで、どのような蘭書が存在しているのかを、2022年5月に弦書房から上梓した著書『蘭学の九州』で初めて紹介した。最後に、1000点以上に及び後藤是山記念館蔵の写本群については、仮目録を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

熊本博物館蔵の和本群や後藤是山記念館蔵の写本群は、その所蔵や中身が世に知られるところではなく、どのような物があるかも不明の状態だったので、これらを解明し、世に周知したところに学術的・社会的意義がある。また、後藤是山記念館蔵の写本・平川清古『波意蘇児記 莫爾智児記』を画像とともに紹介し、さらに熊本大学図書館蔵の菅野是正旧蔵蘭書の内容を案内した著書『蘭学の九州』（弦書房、2022）が、第82回西日本文化賞・奨励賞（学術文化部門、2023年）を受賞したことは、本科研の学術的・社会的意義の大きさを現していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：First, for the Japanese books in the Kumamoto Museum collection, we catalogued and published the Murata Sanbetsu Collection of Old Medical Books and the Kentaro Maehara Collection of Old Medical Books. For the Kusano Koji Collection, a provisional catalog of Japanese and Chinese books was prepared. Next, a provisional catalog was prepared for Old Dutch books in the collection of Kumamoto University Library formerly owned by Koremasa Kanno. Based on this, we introduced for the first time what kind of collection the Sugano bunko is and what kind of Dutch books exist in his book "Rangaku no Kyushu" published by Genshobo in May 2022. Finally, a tentative catalog was prepared for the group of manuscripts in the collection of the Korezan Goto Memorial Museum, which consists of more than 1,000 items.

研究分野：日本史

キーワード：和本 写本 漢籍 蘭書 書誌 蔵書印 肥後 熊本

1. 研究開始当初の背景

近世・近代初期の熊本地域は九州の中心地で、陸運・水運を通じて人・書物・情報・学問が集積していた。その歴史に由来して、同地域の諸機関には多数の和本と蘭書が伝来している。「近世の知」は和・漢・蘭にわたる総合的な学問であったことから、本研究では、第1に、熊本地域の複数のコレクションを対象に、そこに眠っている和漢籍と蘭書(オランダ語書籍)計2,240点とその背景を究明することで、「近世の知」の総合的な解明を目指した。

第2に、熊本知識人が近代初期に収集したコレクションに研究対象を焦点化することによって、現在では確認困難な稀本の発掘を見込むとともに、その蔵書形成・集書の背景から、近代(地方)知識人の学術意識や歴史性を浮き彫りにすることを狙いとした。

第3に、「平成二十八年熊本地震」から復旧が進んでいない「震災復興」と「被災典籍のレスキュー」という観点も本研究の狙いの一つであった。

2. 研究の目的

かねて近世・近代初期における「知」の総合的解明を目指し、熊本を一事例として、これまで『熊本洋学校(1871-1876)旧蔵書の書誌と伝来』(花書院、2012年11月)にて明治初期の熊本洋学校旧蔵書72点の書誌研究を行ったり、『菊池市生涯学習センター蔵和漢籍分類目録』(菊池市教育委員会、2018年3月)にて和漢籍1,176冊の整理を行ったりしてきた。

上記研究に取り組む中で、近世・近代初期の「知」が日本、中国にとどまらず、オランダをはじめとする西洋諸国の学問にまで及んでいることを改めて強く自覚したことにより、言語や異文化という障壁を越えて東西にわたる書物を同時に究明することで、はじめて近世および近代初期の「知」とは何だったのか、という問いを総合的に明らかにすることができるものとの認識を強くした。

また、近代初期は、近世からまだ遠く離れていない時期であり、この頃の地方知識人によって収集されたコレクションに、地域性や時代性、思想性など、コレクターの傾向が反映されることもこれまでに確認してきた。すなわち、そもそも稀少性の高い蘭書は言うまでもなく、和本や漢籍であっても、全国には確認できない稀本や、田舎版など地域色の高い珍本が確認できる可能性が高く、また、「蔵書形成」や「集書背景」に、近代(地方)知識人の学術意識や時代性、さらに当時の「歴史」意識などを見て取ることができる。

以上を踏まえて、本研究では、熊本を事例として、日・蘭の書物研究を軸として、「近世の知」の総合的な究明を行いつつ、近代(地方)知識人(コレクター)が有していた学術意識や時代性、ならびに「歴史」意識を浮き彫りにすることを眼目とした。

3. 研究の方法

以下の方法により研究を行った。

まず、後藤是山記念館には、九州日日新聞社の記者で歴史家でもあった是山が収集した未整理の版本・写本類が約1,200点収蔵されていることが予備調査により明らかになったため、これの現物調査を行った。

同じく、熊本市熊本博物館には、林桜園など幕末の知識人や、様々な近代の学者の所有を経た未整理の版本・写本類が約1,000点所蔵されていることも突き止めたため、これの現物調査を行った。

また、熊本大学附属図書館には、菅野是正が幕末・明治初年に長崎留学した際に収集した蘭書

約 40 点が、書誌や背景が十分に解明されていないまま収蔵されていることが分かったため、これの書誌研究を行った。

4. 研究成果

新型コロナウイルスの流行や所蔵機関の故障などにより、思うように現物調査が叶わない状況・環境となったが、全ての仮目録を作成した。

熊本博物館蔵和本類については、村田三節が蒐集した医書コレクションと、前原健太郎が蒐集した医書コレクションについて、単著「熊本博物館蔵前原健太郎医書コレクション目録」(『熊本県立大学大学院文学研究科論集』、査読無、15、pp.23-31、2022.)と、単著『熊本博物館蔵村田三節医書コレクション目録』(科研報告書、査読無、pp.1-43、2021.)で公表した。

後藤是山記念館蔵写本については、目録作成に従事する中で、高島流砲術の資料である平川清古『波意蘇兒記 莫爾智兒記』など、他所には無い希書をいくつか発見した。発掘した資料のうち、幕末明治熊本の医師城鞠洲の『鞠洲医事文稿』三編については、他の写本と校合して「校訂版『鞠洲医事文稿』三編」(『障害史研究』2号、2021年3月)として公表した。

熊本大学附属図書館蔵の菅野是正旧蔵蘭書についても仮目録を作成し、書誌研究する中で、オランダの大衆啓蒙雑誌『マガゼイン』が所蔵されていることを突き止めた。

さらに、上記『波意蘇兒記 莫爾智兒記』や『マガゼイン』を発見した成果は、単著『蘭学の九州』(弦書房、査読無、pp.1-141、2022.)に反映させた。

熊本博物館蔵資料をはじめとして、これまで知られてこなかった熊本に眠る和漢籍・蘭書を見つけ、目録公開や資料紹介したこと自体が大きな成果であったが、そこにとどまらず、後藤是山記念館や熊本大学附属図書館が蔵する稀少な和本・蘭書を上記単著『蘭学の九州』で紹介したこと、さらに同書が2023年の西日本文化賞(奨励賞・学術文化部門)受賞の一因となったことから、世に周知・注目されるところ大きかったものとする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大島明秀	4. 巻 15
2. 論文標題 熊本博物館蔵前原健太郎医書コレクション目録	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊本県立大学大学院文学研究科論集	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大島明秀	4. 巻 2
2. 論文標題 校訂版『鞠洲医事文稿』三編	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害史研究	6. 最初と最後の頁 146-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大島明秀
2. 発表標題 城鞠洲の医学・医療観
3. 学会等名 「障害の歴史性に関する学際統合研究 比較史的な日本観察」第4回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大島明秀
2. 発表標題 蘭文和訳論の誕生
3. 学会等名 九州近世文学研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大島明秀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 弦書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 蘭学の九州	

1. 著者名 大島明秀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大島明秀	5. 総ページ数 45
3. 書名 熊本博物館蔵村田三節医書コレクション目録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------